

北海道地区災害復旧事業技術講習会 Q & A

(災害採択の基本原則について)

Q 輪中堤^{わちゅうでい}の場合、その土地は民地であることが多いと思いますが、輪中堤の堤防用地は公共用地として取得する必要はあるのでしょうか。

A 輪中堤^{わちゅうでい}に必要な堤防用地(底地)はその堤防を管理していく施設管理者による買収が必要と思われます。

(災害復旧工法Ⅱ)

Q ブロック積み擁壁の考え方についてですが大圧小の場合に相当する背後の埋戻土質と嵩上げ盛土の勾配形状の場合、積みブロックが不安定ではないという根拠を教えてください。

A 根拠は、令和3年災害手帳

P526 ブロック積擁壁は、主として法面の保護に用いられ、地山が締まっている切土、比較的良質な裏込め土で十分な締固めがされている盛土など土圧が小さい場合に適用できるものとした。

P530-531に「土圧が小さい場合」の判断基準の記載があります。

(現地調査における注意点)

Q 手帳のフローに災害報告は「災害終息後の10日以内」とあり、第3節第1災害報告の4では被災後10日以内。災害終息後と被災後は同義ですか?「災害終息」の定義を教えてください。

A 降雨による洪水発生での河川災害としては、「災害終息後」とは、継続している降雨が終了した後、ということと考えています。河川災害の被災は、水位上昇時～ピーク水位時にかけての時間において多くが発生していると思います。「被災後」とは、被災した後ということですが、被災の始まりか終わりか、はっきりしませんので、「災害終息後」とは異なってくるかと思います。仮に破堤など被災の瞬間を現地で確認していた場合でも、河川の水位が落ち着いた後でなければ、最終的な被災の範囲、災害の範囲がどこまで拡大しているかわかりません。

もっと簡単にいうと災害が成立する異常気象が終わった日

また、災害手帳の「災害終息後の10日以内」と「災害報告の4では被災後10日以内」は同義となります。

Q 測量調査の留意点 1－12 の河道形状の変化につきまして、測量調査の仕方は理解できますが、測量法線に従い復旧といった方でよろしいでしょうか？可能であれば、どのような復旧方法等であったのか教えてください。

A 同事例に限らず、現地で設定した測量法線での測量作業の後、平面図及び縦横断図の成果を用いて、設計作業を進めていくことになります。その設計作業の中で、設計法線が確定します。測量法線の段階で、その後の設計法線と大きく異なってくることは避けたいという考えです。

仮に既存施設の資料がある場合は、その線形(設計法線)に基づいて、測量作業を進めるケースもあるかと思います。あくまで、明確な資料がある場合です。

1－12 のケースでは、被災前の農道及び河岸を元に戻す形で検討を進めました。現況の河岸は土羽護岸であり、最終的な設計としては、調査範囲の上流側半分程度、水当たりが強い範囲において、新規に護岸工を申請しました。